Osaka University Knowledge Archive

Title	情報通信における技術革新とビジネス戦略
Author(s)	岡田, 広司
Citation	大阪大学, 1998, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/40543
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【2】

氏　　名	岡　田　広　司（おかだ ひろし）
博士の専攻分野の名称	博　士（国際公共政策）
学　位　記　番　号	第　13984　号
学位授与年月日	平成10年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 国際公共政策研究科比較公共政策専攻
学　位　論　文　名	**情報通信における技術革新とビジネス戦略**
論文審査委員	（主査） 教授　辻　正次 （副査） 教授　林　敏彦　教授　橋本　介三

論文内容の要旨

本研究は、企業の技術革新による新規事業の策定ロジックを設定した上で、特に情報通信システムに関する展開を取り上げ、その特徴と経営学及び経済学的課題を取り上げて考察している。本論の前半は、策定ロジック「戦略的新事業探索法」という手法により構築された二つのネットワークビジネスについて検討している。後半はこれら新事業がもたらした課題について理論展開を中心に考察している。本研究の目的、内容、結論をまとめると次のようになる。

〔目的〕

(1)三要因（経営戦略的、技術開発力、マーケティング力）から戦略的新規事業探索法の提起

(2)第一の新事業、パソコンソフトベンダーがもたらす新しい価格政策の研究

(3)第二の新事業、通信カラオケがもたらす経済的課題の検討

〔内容〕

(1)第1章では、経営戦略的要因、技術開発力要因及びマーケティング要因から構成される「戦略的新事業探索法」の理論的検討と、事例研究を進める。

(2)第2章では、「戦略的新事業探索法」により事業化が決定されたパソコンソフトベンダー事業の構築過程、市場に与える影響、経済的効果、及びパソコンソフト市場について言及している。

(3)第3章では、同じように探索法により、新事業化が決定され、事業が推進された通信カラオケについて説明している。

(4)第4章では、電子販売としてソフトベンダーがもたらす市場均衡価格の分析と、消費者の属性による価格政策などを述べている。

(5)第5章では情報通信ネットワークの普及特性について検討している。

(6)第6章では、ネットワークをビジネスという視点から評価する手法を提議している。新事業の通信カラオケと、従来からのカラオケを流通ネットワークの競争として分析している。

〔結論〕

(1)戦略的新事業探索法により開発された二つの事業、Soft Vending System と通信カラオケの構築は初めて市場に参入したため、新しい経済学・経営学的課題をもたらした。

(2)企業にとっても、電気通信という Infrastructure を活用するため、参入が容易になり、かつ情報通信を利用する

点で、従来にない優位さをもって競争できることが市場動向から判断できる。

(3)電気通信による電子販売方式と従来の販売方式を使い分けることができる。電子販売は市場において新しい均衡価格をもたらすため、製造者は、二重価格政策を取ることができる。

(4)ソフトベンダーのネットワークの普及曲線は、特定な市場を対象としているので、一般的な場合とは違ったケースと考えられ、普及モデルを設定し、その違いを実証している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、電気通信技術の進展に伴い勃興しているネットワーク産業を取り上げ、ニュービジネスとしての立ち上げ方法や普及過程、既存のビジネスやシステムとの比較検討に関して、経済学・経営学の双方から分析を与えるものである。

論文の内容は以下の通りである。第1章では、著者の考案による「戦略的新事業探索法」が提示されている。企業は、経営戦略性、技術開発力、マーケティング力、これら三つを軸とするドメインの中から、新規事業を探るとされる。第2章、第3章では、著者が実際に携わったパソコンソフトベンダービジネスと通信カラオケ事業に関して、「戦略的新事業探索法」がいかに活用されたかが分析されている。第4章では、電子流通システムを取り上げ、電子流通と既存の流通機構の混在、多様な属性を持つ消費者、これらからなる市場で成立する均衡価格（複数）の特徴が分析されている。第5章では、ネットワークビジネスの普及過程が、ネットワークに外部性が存在するケースとそうでないケースが対比する形で分析され、さらにこのような普及曲線が実際に妥当するのか、前者の例としてパソコンソフトベンダーシステムを、後者の例としてファームバンキングを取り上げ、理論的に得られたものと合致するかどうかが実証的に分析されている。最後の章では、ネットワークビジネスを、ネットワークの加入者、市場占拠率、情報の質、費用、これらを用いる評価方法が導出され、それを現実の通信カラオケに適用し、そのネットワークとしての価値を求めている。

本論文は、経済学と経営学の章が混在しているものの、ネットワークビジネスに関して多様な観点から分析を加えるユニークな試みであり、理論的分析とその実証というバランスのとれた構成を持っている。本論文から得られた結論が、既存のものとどう異なるのか、若干吟味不足が感じられるが、「戦略的新事業探索法」やネットワークの評価方法などは、著者の実務上の経験に基いて生み出された概念であり、興味ある論点を含んでいる。

以上から岡田広司氏提出の博士論文は、博士（国際公共政策）の基準を十分満たしていると判定できる。